

最近東洋文庫において蒐集されたオスマン朝史  
関係の文献及びマイクロフィルム (1)

永 田 雄 三

東洋文庫では、かつて「アジア地域総合研究」の一端として、「イスラム地域の社会構造」の研究を分担し、トルコ語、ペルシア語、アラビア語文献を蒐集した。このうちトルコ語文献については、護雅夫氏がトルコ共和国において刊行された文献の蒐集にあたり、それらは現在東洋文庫に所蔵の上、閲覧に供されている。またその後、現地において刊行されたものもイスタンブルの「エリフ書店」を通じて随時補充されている。今回はこの護雅夫氏による蒐集を受け継ぐ立場から、トルコ人学者の研究成果に加えて、オスマン朝史研究に必要なオスマン朝年代記を中心にカーヌーン=ナーメ(法典)、伝記集、論説など、すでに出版されたものを含めて、写本のまま残された根本史料のマイクロフィルムによる蒐集に重点が置かれた。ただこのほかに、いわゆる文書史料があるが、それはトルコ政府によつて、たとえマイクロフィルムの形によつてであるにせよ、国外への持出しを厳禁されており、これを蒐集することはできなかつた。蒐集には、当時イスタンブル大学文学部へ留学中の筆者が依頼され担当した。

今回の蒐集は、1)古書籍 2)絶版本のマイクロフィルム 3)写本のマイクロフィルムに大別される。その各々の内容は後に示す通りであるが、古書籍に関しては、イスタンブルの「エリフ書店」が、またマイクロフィルムによる蒐集については、いずれもイスタンブルにあるスレイマニエ寺院附属図書館、イスタンブル大学総合図書館、バヤズィド国立図書館、ファーティヒ国民図書館、トプカプ故宮博物館附属図書館、ヌール=オスマニエ寺院附属図書館の各図書館が利用された。フィルムの撮影は、トプカプ故宮博物館附属図書館が独自に撮影を引き受けたほかは、スレイマニエ寺院附属図書館が一括して撮影した。古書籍の購入に際しては、オスマン朝年代記とすでに廃巻となつた学術雑誌に重点が置かれた。このうち学術雑誌に関しては今なお高く評価されている雑誌のバックナンバーをある程度揃えることができたが、年代記類の多くは、イスタンブルの古本市場においてもすでにほとんど姿を消しており、わずかに4点を購入し得たにとどまり、マイクロフィルムによる方法に大きく依存せざるを得なかつた。

年代記をはじめ、オスマン朝史研究の根本史料の多くは、未出版のまま写本と

して残されているものが多い。このことを考慮して、今回は写本類のマイクロフィルムによる蒐集に最も多くの比重が置かれた。その際、写本の質的撰択の問題が残されるが、オスマン朝時代に関する文献学研究はごく限られた一部の文献をのぞいてはほとんど未開拓であり、また70点あまりの写本の質的撰択を短期間に行なうことは筆者の及ばないところである。したがって、筆者は蒐集のための写本の撰択にあたっては、トルコ語版イスラム百科事典に使用されているものを基準にし、これと筆者自身の調査の結果とを照合する方法を用いた。

筆者が蒐集活動に着手したのは1967年であるが現地におけるフィルムの撮影が予想外に手間取り、すべての撮影が完了し東洋文庫へ納入されたのは1970年5月である。

なおマイクロフィルムによる撮影に関する許可申請のためには、在トルコ日本大使館、とくに、塩尻彦一(当時、一等書記官、前在イスタンブル日本領事)氏、仙波健雄三等書記官の御援助、申請許可についてはトルコ文部省図書館関係総務局の御好意、撮影に関してはトプカプ故宮博物館副館長ケマル=チュウ(Kemal Çiğ), スレイマニエ図書館長ヘー=デネル(H. Dener)、マイクロフィルム室主任ネジラー=エルセス(Neclâ Erses)氏の御尽力があつたこと、さらに今回の蒐集の実現のためには護雅夫、松村潤、後藤晃諸氏の御協力と御好意の少なくなかつたこと、とくに松村潤先生には2年間にわたつて終始お世話になつたことを記して謝意に代えたい。

### (一) 購入された書籍類 (76点)

主要なものは以下の通りである。基本文献史料である年代記は次の4点である。

1. Mustafa Na'îmâ Efendi; Târîh-i Na'îmâ (ナイマの歴史), 6 vols., Istanbul, 1280 (1863/4), 著者(1652~1715)はアレppoに生まれ、イスタンブルに出て Divan 局(国会議事事務局)に入り、数々の官職を経て、修史官(vak'anüvis)に任じられたが、その生涯は必ずしも恵まれたものではなかつた。ペロポネソス遠征に参加した折りに Patras で死んだ。本書は1591年より1660年に至る断代史で、宮廷修史官としての立場から書かれてはいるが、比較的平易な文体で批判精神も旺盛であり16世紀末~17世紀中葉にいたるオスマン朝社会の変動期を生き生きと描き出している。数多いオスマン朝年代記の白眉といわれる。

2. Hoca Sadeddin Efendi; Tâc al-Tavârih(歴史の王冠), 2 vols., Istanbul, 1279 (1862/3). 著者(1536~1599)はムラト三世(在位1574~95)の帝師としてスルタンに強い影響を与え、また晩年にはメフメト三世(在位1595~1603)のシェイヒュル=イスラム(Şeyhülislam)として絶大な政治権力を掌握した。本書はオスマン朝の建国からセリム一世(在位1512~1520)の死までを扱う美文調の

通史でオスマン朝時代の宮廷文学の代表作の一つでもある。

3. Kivâmî; Feth-nâme-i Sultan Mehmed (メフメト二世の征服の書), ed., F. Babinger, Istanbul, 1955. メフメト二世(在位1444~1445, 1451~1481)の有名なイスタンブル征服に関する記録。ドイツの世界的なオスマン朝史家 F. Babinger の監修による覆刻版。

4. Azîz bin Ardaşîr Esterabâdî; Bezm ü Rezm (宴と戦), ed., F. Köprülü, Istanbul, 1928年。14世紀後半のアナトリア地方、とくに Sivas の Kadı Burhaneddin に関する基本史料。ペルシャ語。

書目・カタログ・辞典類では, Ş. Sâmî; Kâmûs-ı Türkî (トルコ語集成), Istanbul, 1317 (1901/2), İ. Galip; Meskûkât-ı Türkmâniye Kataloğu (テュルクメンに関する貨幣カタログ), Istanbul, 1311 (1895/6), M. Mübârek, Meskûkât-ı Kadîme-i İslâmiye Kataloğu (イスラム時代の古銭), 3. Vol., Istanbul, 1318 (1902/3), E.H. Karatay; Topkapısarayı Müzesi Kütüphanesi Arapça Yazmaları Kataloğu (トプカプ 故宮博物館附属図書館アラビア語写本カタログ), 2 vols., Istanbul, 1962~1966, T. ÖZ, ed.; Arşiv Kılavuzu (トプカプ文書案内), 2 vols., Istanbul, 1938~40, F. Başbuğoğlu; 1928~1965 yılları Arasında Türkiye'de Basılan Bibliyografyaların Bibliyografyası (1928~1965年にトルコで発行された書目に関する書目), Ankara, 1966. がある。研究書には, İ. Artuk; Mardin Artukoğulları Tarihi (マルディンにおけるアルトゥク侯国史), Istanbul, 1944. A.N. Kurat; Peçenek Tarihi (ペチェネグ史), Istanbul, 1937. Ç. Uluçay; Saruhanoğulları ve Eserlerine dair Vesikalar (サルハン侯国とその遺跡に関する史料集), Istanbul, 1940. İ.H. Uzunçarşılı; Kitâbeler (碑文史料集), Istanbul, 1927. Do.; Osmanlı Devleti Teşkilâtına Medhal (オスマン朝制度史序説), Istanbul, 1941. O. Ergin; Türkiye'de Şehirciliğin Tarihi İnkişafı (トルコにおける都市建設発達史), Istanbul, 1936. S. Ayverdi; İbrahim Efendi Konağı (イブラヒム=エフェンディ邸), Istanbul, 1964. Do.; Boğaz İçinde Tarihi (ボスフォラス沿岸史), Istanbul, 1966. E.H. Ayverdi; Osmanlı Tarihinde Mimarisinin İlk Devri (オスマン朝初期建築史), Istanbul, 1966. VL. Mirmiroğlu; Fâtihin Donanması ve Deniz Savaşları (ファティヒの海軍と諸海戦), Istanbul, 1946. などがみえる。このほかに, アンカラ, アンタリア, ボル, エディルネ, カスタモズ, カイセリ, マニサなどに関する地方史研究書が購入された。

古書籍蒐集の中心の一つは, すでに絶版となつた古典的な雑誌のバックナンバーを揃えることに置かれた。蒐集された雑誌は次のものである。

Târîh-i Osmânî Encümeni, ed., Târîh-i Osmânî Encümeni Mecmuası (オスマン朝史協会誌), No.1~101, Istanbul, 1329 (1910)~1931. これは, オスマ

ン朝最後の修史官であつた Abdurrahman Şeref の主宰する同名の協会の機関誌。収録されている論文、史料紹介の大部分はオスマン朝史に関するものである。各号の巻末には附録として、ビザンツ史家クリトヴォロスの「メフメト二世伝」のトルコ語訳テキストやメフメト二世、スレイマン一世（に擬せられる）のカーヌン=ナーメ（法典）などの基本史料のテキストを掲載し、オスマン朝史研究に欠くことのできない古典的な雑誌。なお1号～77号までが上述の誌名で刊行され、78号以下は上述の協会が「トルコ歴史協会：Türk Tarih Encümeni」と名を変えたため、その機関誌名も「Türk Tarih Encümeni Mecmuası（トルコ歴史協会誌）」と改められた。なおこの雑誌は、今日のトルコ歴史学協会（Türk Tarih kurumu）の機関誌「ベレテン（Belleten）」の前身にあたる。

Maarif Vekilliği, Tarih Vesikaları（歴史史料）、3 vols., No. 1～15., Istanbul, 1941～1944. 文部省の要請によつてトルコ歴史学協会が監修したオスマン朝時代に関する史料紹介専門誌。アタテュルクに関するものなど近代史関係に重点が置かれている。

F. Köprülü, ed., Millî Tetebbüler Mecmuası（民族史研究誌）、2 vols., No. 1～5., Istanbul, 1331（1915/6）. オスマン朝に限らず、広くトルコ民族史研究を対象とした雑誌。わずか5号で中断したが Barthold, F. Köprülü, Ziya Gökalp などの著名な論考を収録する貴重な雑誌である。

F. Köprülü, ed., Türk Hukuk ve İktisat Tarihi Mecmuası（チュルク法制・経済史雑誌）、2 vols., Istanbul, 1932～39. これもわずか2巻（2冊）で廃巻となつたが、トルコ史学界に占めるその地位は重要である。Z. V. Togan, Barthold, P. Wittek などの論文がみられるが、第1巻には F. Köprülü のビザンツ遺制とオスマン朝諸制度との関係に関する著名な論考が収録されている。

Vakıflar Umum Müdürlüğü, Vakıflar Dergisi（ワクフ学雑誌）、6 vols., Ankara, 1936～. 現在までわずか6巻（6冊）を数えるにすぎないが、ワクフ研究を専門とする特異な雑誌で数多くのワクフ文書が紹介されている。

## (二) マイクロフィルムによって蒐集された出版物（17点）

### (1) 通史

1. Feridûn Bey: Munşâ'ât al-Salâtin（諸スルタンの文集）、Istanbul, 1264（1847/8）～1265（1848/9）. 著者（1583年没）はスレイマン一世（在位1520～1566）のシゲトヴァル遠征に随行して勇名を馳せた武人でもある。ニシャンジ（Nişancı：国璽尚書）を務めた経験を生かして本書が執筆された。本書はオスマン朝の建国からムラト三世（在位1574～1995）の即位までを扱うが、特にその中に歴代のスルタンの詔勅などアラビア語、ペルシャ語、トルコ語による1,880点の根本史料を含み、史料集としての価値が尊ばれる。オスマン朝年代記の中でも最も重要な

ものの一つ。

2. Kâtib Çelebi: Taqvim al-Tavârih (歴史の暦), Istanbul, 1146(1730/1)。人類の創生から1648年までにおよぶ。著者(1608~1657)はハッヂ=ハリファと呼ばれて良く知られ、オスマン朝時代を通じての最も学識豊かな学者・思想家の一人。若い頃からアラビア語やスィヤークット書体学をマスターしていたが、やがて軍団の書記(Kâtib)としてハマダーン、バグダード方面の遠征に参加して各地の事情を見聞した。1635年に、莫大な遺産がころがり込んだのを機会に学究生活に入り、ラテン語、数学、天文学に関する知識を深めた。アラビア語、トルコ語による数多くの著書があるが、本書は、かれのアラビア語による年代記である Faḫlaka (要約)の要約で、東方諸君主や偉人の事蹟を年表風にまとめたもの。すでに数版を重ねているが今回マイクロフィルムにとられたのは、İbrahim Müteferrika がアフメト三世(在位1703~1730)によつて印刷所の開設を許可されると真つ先に出版したといわれるその初版本である。

3. Ferâ'îz-zâde Seyyid Mehmed Efendi: Gülşen-i Ma'ârif(知識のパラ園), 2 vols., Istanbul, 1252 (1836/7)。著者(1786年没)は18世紀末に詩人として知られた人。本書は人類の創生から説き始める通史であるが、1656年~1774年までを扱う第2巻がオリジナルといわれる。

## (2) 断代史

4. Mustafâ Selânikî: Târîh-i Selânikî (セラニキーの歴史), Istanbul, 1281 (1864/5)。著者(1600年没)は16世紀末のオスマン朝宮廷に仕えた官吏であるが、キプロス島の征服やレバント沖の海戦など多くの歴史的事件を目撃し、それを記録したのが本書である。ただし、出版されたのは1565年のマルタ島遠征から1591年にいたる第1巻だけである。未出版のまま残された第2巻については写本に関する部分で再び取り上げる。いずれにしても本書は、スレイマン一世の治世末期からメフメト三世時代にかけてのオスマン朝史研究のための最も基本的な文献史料の一つとして高く評価されている。

5. Cevrî İbrahim Çelebi: Târîh-i Cevrî Çelebi (ジェヴリー=チェレビーの歴史), Istanbul, 1291 (1874/5)。著者(1654年没)はイスタンブル生れの詩人。本書はスレイマン一世末期から17世紀中葉にいたるまでの主な歴史的事件を断片的に記録したもの。

6. Kâtib Çelebi: Fezleke (要約), Istanbul, 1286 (1869/70)~1287(1870/1)。著者のアラビア語による同名の年代記(マホメット時代から1591年までを扱う)の続巻としてトルコ語で書かれ、1592年から1655年までを含む。この続巻は著者自身の同時代史に当たるため、アラビア語によるものにくらべると歴史書としては、はるかにオリジナルである。キャーティブ=チェレビーの多くの著作の中でも最も重要な作品の一つで、後世の多くの歴史書、とくに「ナイマの歴史」の主

要な基礎史料となった。

7. Sâmi, Şâki, Subhî: Târîh (歴史), Istanbul, 1198 (1783/4)。1730年～1743年の間に相次いで修史官となったサーミー、シャーキー、スプヒーの3人の記録を集めたもの。パトロナ=ハリルの反乱とその後の諸事件とを含む。

8. İzzâ Süleyman Efendi: Târîh (歴史), 2 vols., Istanbul, 1199 (1784/5)。著者(1754年没)は Subhî Mehmed Efendî に代つて1743年に修史官となった人。本書は1744年～1747年までを扱う。

(3) 論 説

9. Gelibolulu Mustafa Âlî: Heft Meclis (7つの断章), Istanbul, 1316 (1900/1)。著者(1541～1600)はキャーティプ=チェレビーとならんでオスマン朝を代表する著述家の一人。キプロス島征服に総司令官として活躍した Lala Mustafa Paşa に仕えて各地に遠征する間に40以上にのぼる作品を書いた。本書はキプロス遠征からイスタンブルへ帰った直後、1573年に執筆されたもので、小冊子ながら16世紀末のオスマン社会を良く描き出した論評として高く評価されている。

10. Kâtib Çelebî: Dustûr al-‘Amal li İṣlâḥ al-Ḥalel (諸欠陥の改革のための規範), Istanbul, 1280(1863/4)。1067 (1652/3)年にメフメト四世(在位1648～1687)は困窮化した国家財政の改善策を審議させるために、特別委員会を召集したが、本書はこの委員会に列席したキャーティプ=チェレビーが、局面の打開策としてかれの考えを披露したものである。本書において財政難救済のための具体的な方策が示されたわけではないが、この偉大な著述家の思想を理解するために、本書は重要な意味を持つ。

(4) 伝 記 集

11. Mehmed Süreyyâ: Sicill-i Osmânî (オスマン朝紳士録), 4 vols., Istanbul, 1308 (1892/3)～1311 (1895/6)。書記として長い間オスマン朝に仕えた著者(1908年没)が、古記録や墓碑銘を丹念に調査してまとめ上げた労作。オスマン朝全代を通じて、スルタン、王家一族、宮廷侍従、官僚、官吏、軍人、文人、ウレマー、地方名士を網羅した伝記集成。オスマン朝史研究者にとつては欠くことのできない工具の一つに数えられている。

12. Osman-zâde Ahmed Tayyib: Ḥadiqat al-Vuzarâ (宰相達の花園), Istanbul, 1271(1854/5)。著者(1723年没)はアフメト三世によつて“詩人達のスルタン”という異名を受けたチューリップ時代の著名な詩人。本書は著者が第一代のサドラザム(大宰相)以来の歴代のサドラザムの伝記集を集めたのが基礎になつていて、その後多くの人によつて増補が行なわれて有名な Alemdar Mustafa Paşa (1750～1808)に至るまでのサドラザムの伝記集成となつていて。

13. Esseyyid Rızâ: Teczkere-i Rızâ (リザの覚書), Istanbul, 1316 (1900/1)。オスマン朝のウレマー達の伝記集。

14. Müstakim-zâde Süleyman Efendi: Tuhfe-i Hattatın (書家達の贈物), Istanbul, 1929. オスマン朝歴代の書家 (Hattat) 達の伝記集。

(5) その他

15. Kâtib Çelebî: Tuḥfat al-Kibâr fi Asfâr al-Bihâr (諸海戦士達の贈物), Istanbul, 1141(1728/9)。オスマン朝の初期から本書が執筆された1656年に至るまでの諸戦役、とりわけ海戦における提督達の戦略、作戦行動を記述したもの。これは著者が、1055 (1645/6) 年のクレタ島攻略にみられた作戦上の誤りや不手際に対する警告として著わしたもので、40条にわたる項目からなる。二度の出版、仏訳、英重訳があるが、今回マイクロフィルムに撮られたのは İbrahim Müteferrika による初版本。

16. Ahmed Cevad Paşa: Târih-i Askerî-i Osmâniyye (オスマン朝軍事史), Istanbul, 1297(1879/80)~99(1881/2)。著者 (1850~1900) はアブデュル=ハミト二世 (在位1876~1909) のサドラザムの一。数多くの著作があるが、本書はイェニチェリ軍団に関する総括的な研究で、その起源、組織から服装、武器に至るあらゆる問題を取り扱う。イェニチェリ研究のためには必読書の一つ。

17. Ahmed Remzî: Miftâḥ al-Kutub (諸著述の鍵), Istanbul, 1928。本書は Bursalı Mehmed Tâhir ≪Osmanlı Müellifleri (オスマン朝の著述家達 : 3 vols., Istanbul, 1333~1342)≫のインデクス部分に相当する。

### (三) マイクロフィルムによって蒐集された写本類 (78点)

マイクロフィルムによつて蒐集された写本については次の順序に従つて紹介する。まず、マイクロフィルムによつて蒐集された出版物の場合と同様、その内容に応じて、(1)通史 (2)断代史 (3)論説 (4)伝記集 (5)カーヌーン=ナーメ及び雑録 (一般に Münşeat—修辞学用の手本—, Mecmua—カーヌーンや式典儀礼など様々な事項を含む覚書に類するもの—と呼ばれるもの) (6)その他、に大別された。その各々の分類における各個の写本については次の順序に従つて解説される。①著者 (あるいは編者) ②題目 ③写本の所蔵場所とその整理番号 ④書体 ⑤写本作成年代 ⑥撮影状態 ⑦コマ数 ⑧著者と作品に関する解題。なお、所蔵場所とその整理番号に関しては次のような略号が用いられた。

T.K.S.: トプカプ故宮博物館附属図書館

S.: スレイマニエ寺院附属図書館

UNV.: イスタンブル大学総合図書館

D.: バヤズィド国立図書館

M.: 国民図書館

Ef.: Efendi (エフェンディ)

ktb.: Kitap (書籍)

ksm.: kısım (分類)

T.: Türkçe Yazmaları (トルコ語写本)

F.: Farsça Yazmaları (ペルシャ語写本)

(1) 通史

1. ①Rıdvan Paşa-zâde Osman ②Târîh (歴史) ③S., Haffid Ef. ktb., No. 226 ④Nasîh ⑤1177(1763/4) ⑥良好 ⑦251 ⑧著者についてはほとんど何も知られていないが、スレイマン一世の治世末期にイエーメンのベイレルベイ (Beylerbeyi) を務めた Rıdvan Paşa の息子と考えられ得る。本書は人類の創生からセリム一世によるエジプト征服 (1517) までに至るエジプト方面の事情を中心に扱う。ただし、17世紀にイブラヒム一世 (在位1640~1648) の即位に至るまでの部分が追加された形跡がある。

2. ①Müheyyâ Çelebî ②Târîh-i Âl-i Osmân (オスマン王家の歴史) ③M., Alî Emîri ktb., No. 15 ④Nasîh ⑤16世紀 (?) ⑥不良 ⑦165 ⑧著者についてはほとんど何も知られていない。本書は 955(1548/9) 年までのオスマン朝通史。

3. ①İdrîs-i Bitlîsî ②Heşt Bihişt (8つの楽園) ③UNV., No. F225 ④Ta'lik ⑤16世紀 (?) ⑥良好 ⑦361 ⑧著者 (1520年没) はもともと白羊朝の Uzun Hasan の弟である Yakûb に仕えていたが、バヤズィド二世 (在位1481~1512) の招きに応じてオスマン朝宮廷に入った。セリム一世の時代にはスルタンと共に、イラン、クルディスタン、エジプト方面の遠征に随行し、その良き相談相手になつたといわれる。本書はバヤズィド二世の要請により執筆されたもので、オスマン一世 (在位1299~1324) からバヤズィド二世に至る各スルタンの業績を述べたもの。ペルシャ語。

4. ①Rüstem Paşa (?) ②Târîh-i Âl-i Osmân (オスマン王家の歴史) ③UNV., No. T2438 ④Nasîh ⑤17世紀 (?) ⑥良好 ⑦297 ⑧本書はスレイマン一世の治世末期のサドラザム, Rüstem Paşa (1500?~1561) の作とされる歴史書の写本の一つである。建国から Rüstem Paşa の死までを含む。しかし、彼自身が本当にこの歴史書を書いたかどうかはいまなお定説がない。

5. ①Gelibolulu Mustafa Âlî ②Kunh al-Aḥbâr (諸事件の本質) ③Nuruosmaniye, No. 3407 ④Nasîh ⑤1095(1683/4) ⑥良好 ⑦618 ⑧著者についてはすでに述べたが、本書はこの大著述家の代表作。人類の創生から1591 (あるいは1599年) までを扱うオスマン朝時代の代表的な通史。このうちメフメト二世時代の初期に至る部分は出版 (Istanbul, 1277—1860/1—~1285—1868/9—) されているが、歴史書として最も価値のあるのは、著者の同時代史に当るスレイマン一世以後の未出版の部分といわれる。蒐集された写本は1595年までを含む。

6. ①Za'îm Mehmed Bey ②Câmi' al-Tavâriḥ (集史) ③Nuruosmaniye



No. 3270 ④Ta'lik ⑤1125 (1713/4) ⑥良好 ⑦304 ⑧著者についてはムラト三世 (在位1574~1594) の側近であつたこと以外に詳しいことは知られていない。本書はオスマン朝を含めた25の王朝の歴史を扱い、1574年までにおよぶ。有名な İbrahim Peçevi の「歴史」(2 vols., Istanbul, 1283—1866/7—) の1542年以降の部分は本書を基礎史料としたといわれる。

7. ①Sinâsî Mehmed Ağa ②Tazkirat al-Salâtin wa-Macâlis al-Havâkin (諸スルタンに関する覚書と諸君主に関する断章) ③T.K.S., Revan, No. 1434 ④Ta'lik ⑤1648 ⑥良好 ⑦270 ⑧著者はイブラヒム一世時代の人。本書は人類の創生からイブラヒム一世時代までを扱う。

8. ①Abdurrahman Hibri Efendi ②Fütûhât-ı Âli Osmân (オスマン王家の諸征服) ③S., Fâtih ktb., No. 4361 ④Ta'lik ⑤18世紀(?) ⑥良好 ⑦31 ⑧著者 (1603~1676) はエディルネ生れのウレマー。本書はオスマン朝の建国からイブラヒム一世時代までの通史。

9. ①Ahmed Hasan Bey-zâde ②Târîh-i Âli Osmân (オスマン王家の歴史) ③T.K.S., Bağdad, No. 207 ④Ta'lik ⑤17世紀(?) ⑥良好 ⑧著者 (1636年没) はメフメト三世時代にデフテルダル (Defterdâr: 財務長官) を務めた人。本書はオスマン朝の建国からムラト四世 (在位1623~1640) 時代初期までを扱う。良く知られた年代記の一つであるが、スレイマン一世時代までに関する部分はHoca Sadeddin Efendi の「歴史の王冠」の要約といわれる。本書のオリジナルな部分は著者の同時代史であるメフメト三世時代以後である。

10. ①Karaçelebî-zâde Abdülazîz Efendi ②Ravzat al-Abrâr (篤信家達の花園) ③UNV., No. T3272 ④Ta'lik ⑤18世紀(?) ⑥良好 ⑦134 ⑧著者 (1591~1658) はイブラヒム一世の廃位をめぐる政治的陰謀に主要な役割を果し、1651年にはイエニチェリの勢力を背景にシェイヒュル=イスラムになるなど、17世紀中葉のオスマン朝政治史の中心人物の一人。本書は人類の創生から1658年までを扱うが、このうち1645年にクレタ島攻略にオスマン艦隊が発するまでの部分が出版 (Bulak, 1248—1832/3—) されている。しかし、本書の庄巻はその後の部分、すなわち著者自身がその中で主要な役割を演ずる1645年から著者の死の直前に至る時代を扱う未出版の部分である。オスマン朝年代記中最も重要なものの一つ。

11. ①Hezarfen Hüseyin Efendi ②Tanqih al-Tavârih (歴史の要説) ③S., Esad ktb., No. 2239 ④Nasih ⑤1083 (1669/70) (?) ⑥良好 ⑦254 ⑧著者はメフメト四世の歴史の教師で、キョプリュルユ家の保護を受けた著述家・旅行家。本書は古代イランからオスマン朝に至るまで50の王朝の歴史を扱う。メフメト四世のための教科書として執筆されたといわれる。

12. ①Esiri Hasan ②Mi'yâr al-Duval wa-Misbâr al-Milal (諸国と諸民族

に関する見聞) ③S., Esad ktb., No. 2109, 2110 ④Nasîh ⑤1229(1813/4) ~1232(1816/7) ⑥良好 ⑦662 ⑧著者(1727年没)はイェニチェリ出身の官僚。対オーストリア戦役中に捕虜として2年間オーストリアに滞在した。本書はオスマン朝に至るまでのイスラム諸王朝史であるが、イェニチェリとして、また捕虜として過した様々な地方についての地理的見聞が多く盛り込まれているところに特色がある。

13. ①Örfî Mehmed Ağa ②Mefhûm al-Tavârih (歴史の意義) ③M., Alî Emirî ktb., No. 412 ④Nasîh ⑤18世紀(?) ⑥良好 ⑦50 ⑧著者(1758年没)はマフムート一世(在位1730~1754)直属のイェニチェリ軍団の事務長(Yeniçeri Efendisi)を務めた人。オスマン朝の建国からマフムート一世時代にいたる概説であるが、ヨーロッパ諸国との関係史に重点が置かれている。

14. ①Şam'dânî-zâde Süleyman Efendi ②Miru' al-Tavârih (歴史の鏡) ③D., Umumî, No. 5144 ④Ta'lik ⑤19世紀 ⑥良好 ⑦543 ⑧著者(1779年没)はムスタファ三世(在位1757~1774), アブデュル=ハミト一世(在位1774~1789)時代のウレマーの一人。本書は人類の創生から1777年までを扱うが、著者はこれをキャーティプ=チェレビーの「歴史の暦」の続篇として書いたといわれる。このうち1520年までを扱う第一部が出版(Istanbul, 1922)されている。しかし、本書の最も重要な部分は未出版の第二部である。本書は同時代に書かれた他の史書とくらべると独創的な見解を数多く含み特異な価値を持っている。

(未完)